

日墨戦略的グローバルパートナーシップ研修計画

研修レポート 2017年3月

井山明日香

メキシコシティでは4月からサマータイムがはじまり、徐々に乾季から雨季へと変わりつつあります。最近、朝はサマータイムの影響で7時半ほどに日が昇り日中は半袖で過ごせるほど暑く夕方から夜にかけては時々まとまった雨が降り、夜8時ごろまでは太陽が出ていて、日本の気候と比べると少し奇妙に感じられます。しかしこのサマータイムは、日照時間が一年を通してさほど変わらないメキシコでは意味があるのかとも言われています。夜遅くまで日が昇っているから電気の消費量が減ったという意見もあれば、サマータイムを採用しているアメリカとの時差を減らすためにメキシコも採用せざるを得ないという意見もあります。ともかく、ただでさえ朝が苦手な私にとっては少しつらいサマータイムです。

先日、イダルゴ州にあるリアルデルモンテという街へ日帰り旅行をしてきました。この街はメキシコ政府が観光促進のために設立されたプエブロマヒコというものに選ばれています。プエブロマヒコとは国内から魔法のように魅惑的な自治体を選出するというプログラムで、国中にたくさんのプエブロマヒコがあります。選定基準には自然や文化遺産、歴史的な重要性などが掲げられています。広島でいうと呉や尾道、三段峡が選定されるのではないのでしょうか。

そしてこのリアルデルモンテは標高2700mの高地にある鉱山の町です。16世紀ごろから開発された街でしたが、19世紀初頭には独立戦争の影響で完全に荒廃した状態になっていました。しかし、1825年にイギリスからの鉱山労働者やエンジニアが到着し、再開発が行われたそうです。最盛期には世界の6%の銀を産出して、今は閉山となっていますが古い町並みが保存され産業遺跡として人気があります。

また、この街にはイギリス人によってもたらされたものが2つあります。ひとつはサッカーです。今ではメキシコで最も人気があるスポーツとなったサッカーですが、このリアルデルモンテで鉱山夫が南北アメリカで初めてサッカーをしたのだと言われています。ふたつめはパステスという食べ物です。これは

現在イダルゴ州特有の食べものになっていて、餃子のような形で手のひらサイズのパイ生地の中に、ジャガイモとお肉だったりフリホールというあずきを塩で煮たものだったりを詰めて焼いたものです。本来は鉱山労働者たちが鉱山のなかでも片手でサッと食べられるように作られた食べものだそうです。この日に訪れた博物館ではパステスの手作り体験も行なっていて、できたてのパステスは本当に美味しかったです。

レアルデルモンテ以外にもメキシコにはたくさんのプエブロマヒコがあり、そのような街を知れば知るほど多様性に富んだこの国が大好きになります。

・パステス



・レアルデルモンテの町並み



・教会(オレンジ色の部分はスペイン人が作り、後からイギリス人が鉱山労働者のために時計台を設置した)

